

## 語学研修終了報告書

報告年月日 2019 年 4 月 16 日

留学プログラム名	TASTE 海外語学短期研修
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	工学院
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	電気電子系
留学時の学年	学士 3年
留学先国	オーストラリア
留学先大学	クイーンズランド大学
プログラム期間	2019年2月11日 ~ 2019年3月15日

### 報告事項

#### ① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

クイーンズランド大学の Institute of Continuing & TESOL Education (ICTE) という留学専用の機関では留学生用に分野の異なるいくつかのプログラムを有している。仕事や学業に特化した英語コースへの参加には IELTS や TOFEL IBT の基準スコアの獲得が必要となる。

ICTE では5週間ごとに生徒を受け入れ、最終週にテストを行っている。次の5週間も継続して在籍する場合はこのテストの結果次第で別のコースに移ることもできる。

私はスコアの提出がない General English (GE) コースに参加した。スコアがいない代わりに初日のテストで1~6のレベルに振り分けられる。レベル5の人数が最も多いようだった。

私のクラスもレベル5で、全体18人、内日本から11人、中国から3人、インドネシア、ベトナム、スリランカとサウジアラビアから1人ずつであった。先生はメインの先生とサポートの先生2人がいて、曜日で担当が変わる。



写真 1 最終日、教室にて

## ② 留学先での授業内容

授業は月～金曜日、8:15-10:15、10:45-12:45 の 1 日 4 時間。午後に行われるクラスもあったようだが、選択はできなかった。

内容は Cambridge LMS という教科書に沿って行われた。使用する教科書はレベル毎に異なり、最初の授業で配布される。主にリスニング、文法をメインにやりつつ、教科書中の話題についてディスカッションを行う。ライティングをメインでやる曜日もあった。

席は 6 人ずつのグループになっており、毎回好きな席に座る。私はなるべく違う国の学生の近くに座るよう心掛けていたが、最後の方の授業では日本人で固まり日本語で喋ってしまっているグループも見られた。

評価は最終週に行われるテストで決まる。テストはスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに分かれ、それぞれ 3 段階で評価される。スピーキングは先生が決めたペアとその場で出された題目について 8 分間ディスカッションするというもので、ライティングは 2 つの題から片方を選択しエッセイを 1 つ書くというものだった。

## ③ 留学先での課外活動

放課後には、毎日アクティビティとワークショップが用意されていた。学生たちは自由に選択し、事前予約で活動に参加できる。私は美術館ツアーやバドミントン、ズンバ、会話練習やスラングのワークショップなどに参加した。これを通して他クラスの生徒とも知り合うことができた。

毎週金曜日の授業間の休憩時間にはモーニングティータイムがあり、クラスの何人かが持ち寄った料理を外に出てみんなで食べた。それぞれの国の郷土料理が食べられてとても面白かった。



写真 2 モーニングティーの様子

個人としては、クラス全体の交流を深めようと、懇親会の企画をしてみた。電話での店の予約に失敗し、前日直接お店に訪ねて予約をとった。電話の難しさを実感するとともに、多少のスキルアップに繋がったかと思う。この懇親会を皮切りに、他のクラスメイトや私の企画で何度かパーティーが開催された。先生からこんなに仲の良いクラスは珍しいと褒められ、自分の行動が全体に影響を及ぼすこともできるのだなと嬉しく思った。



写真 3 クラスでバーベキューをした

ホームステイ先でもクリスチャンの集会に連れて行ってもらったり、野生のカンガルーを見に行ったり、一緒に料理を作ったりした。初めての体験をたくさんすることができた。ホームステイ

を受け入れてくれた人々は相手が英語を話せないことに慣れていたので、理解しやすい英語で話してくれたり私の意図をくみ取って正しい英語で言い換えてくれたりと、しゃべりやすい環境を作ってくれて、とてもいい英会話の練習ができた。

#### ④ 留学から何を学び、それを今後どのように活かしたいか

授業の中では、日本人と他の国の学生との違いが浮き彫りになっていたように思う。クラス構成もその一例であると言えるだろう。日本人と中国人は全員が大学生であったが、他の国から来た4人は全員が社会人で子持ちだった。社会の違いを大きく感じるとともに、ただ英語を学びたいという思いで社会に出てから海外の大学に留学するという行動力に感動し、年齢はやりたいたことを諦める理由にならないのだなと痛感した。

また始めの頃、先生に質問する、全体に投げかけられた質問に答えるのはほとんどが日本人以外の学生だった。質問が転じて先生との雑談が始まり、驚かされたこともあった。しかし外国人と関わりクラスに慣れていくにつれて日本人もだんだん発言していくようになり、結果、授業が活気のある楽しいものになったように思う。普段の会話に関しても同様で、私が喋る内容を考えている間に会話が進んで行ってしまうという経験が多々あった。日本での英語学習は文法や発音などを正しく習うことが中心で、それをういてコミュニケーションをとる練習をする機会は少ない。もし間違えていてもネイティブの人たちは汲み取って理解してくれるため、間違えないことよりも伝えることの方がずっと大切だと改めて気付かされた。これからは積極的に”使う”ようにしていきたい。

オーストラリアの人々のフレンドリーさには驚かされた。道を歩いていれば調子はどうかと声を掛けられ、交通機関内ではどこまで行くのかと尋ねられる。はじめは戸惑ったが、そういった国民性からか体の不自由な人がバスに乗ってくればみんな席を空けここ空いているよと教え合い、知らないことを聞かれてもちょっと待ってねと知っている人まで繋げてくれるといった、温かい光景を何度も見る事ができた。人と関わることに抵抗を持たない国民性がこういった行動に繋がるのかなと感じた。

ホームステイ先で連れて行ってもらったクリスチャンの集会では、説教を聞いたり、みんなで聖歌を歌ったり、握手をして回ったりと、初めての経験ばかりだった。“宗教”と聞くと、日本人は特に、恐怖感や拒否感を抱く人も多いと思う。私も少し行くのが怖かったが、いざ行ってみると押し付けられているでも妄信しているでもなく、みんなが楽しんで自然にそこにいるという印象だった。よそ者の私も温かく迎え入れてくれ、上で述べた親切な行動にも繋がっているように感じた。宗教にもよるが、自分の信じるものに従って正しく平和に過ごすことが出来るなら悪いものではないなと考えを改めた。この経験から、先入観を持って拒否するのではなく、相手を知ろうと歩み寄ることが大事だということを実感できた。これからどんな相手と関わることになっても、まずは理解する努力を忘れないようにしたい。

#### ⑤ 留学前の準備

TASTE にはいくつかの留学先がある。その違いなどについて、説明会に参加しそびれてしま

ったが、留学情報館に伺い、詳しく聞くことが出来た。

今回の留学の申し込みは、ICTE のホームページから個人で直接行なった。ホームステイを選択する場合は同じページのアンケートで申し込むことができる。いくつかの質問に答えると、大学側が適当なホームステイ先を提供してくれる。

飛行機は個人で予約する。飛行機から滞在先までは、ホームステイなどと同じページで申し込み、送り届けてもらうことが出来た。

ビザは、留学生用が3か月以上滞在する場合だったので、旅行者用の ETAs を取得した。オーストラリア大使館のホームページから取得する事が出来る電子式のビザだった。

携帯電話を使うにあたって、SIM カードを利用した。ポケット Wi-fi をレンタルするよりもずっと安く、大容量だった。SIM カードは現地で手に入るが、日本であらかじめ SIM ロックを解除しておかなければならない。

勉強は特別どこかに通うなどはしなかったが、大学への質問やホームステイ先への挨拶などは英語でやり取りすることになるので、そのやり取りが練習にもなり、心の準備にもなったかなと思う。

## ⑥ 留学費用

授業料: AUD\$ 2470

ホームステイ代: AUD\$ 1560

空港までの迎え(希望制): AUD\$ 110

飛行機代: 15 万

生活費(遊び含む): 12 万(うち交通費 2.5 万円、携帯電話の SIM カード 4000 円)

現金は 2 万円を両替して持って行ったが十分だった。

ほとんど全てのお店でクレジットカードが使えた。クレジットカードの方が両替よりもレートがいい。しかし、友人たちとの食事や、懇親会を開くなど集金の場合に備えて多少の現金が必要。

## ⑦ 留学先での住居

ホームステイを選択した。大学に留学を申し込むアンケートでホームステイを申し込むことができる。いくつかの質問に答えると、大学側が適当なホームステイ先を提供してくれる。寮やアパートよりもお金はかかるが、学校では留学生同士でかかわることがほとんどだったので、現地の人と関われる貴重な機会になった。また、ほかの文化の生活の中に身を置けることはとても面白い経験だった。

家によって門限があったり、シャワーの時間に制限があったりとルールが異なっていた。

## ⑧ 留学先で困ったこと(もしあれば)

LCC の飛行機を予約していたが、出発の飛行機が飛ばず、他の便をとり直して予定よりも 1

日遅れの到着となってしまった。全く想定していなかったので運休と分かった後の手配に手間取った。

### ⑨ 留学を希望する後輩へアドバイス

入学前から留学をしてみたいと考えていましたが、勇気が湧かずに遅い時期になってしまいました。出発する直前まで恐怖や不安でいっぱいでも、いざ行ってみるとすごく刺激的で、日本に帰りたくないと思うくらい楽しかったです。また、自分の中の価値観もがらりと変えられました。

もしこれを見ている人の中に行ってみたくはあるけど怖いという人がいたら、だまされたと思って行動を起こしてみてください。

日本の春休みの時期だとどうしても日本人が多くなってしまいうようでした。しかし留学の充実度は、自分次第でいくらでも変わります。外国人とたくさん関わって様々な経験をすることもできれば日本人としか関わらずに日本にいるのと同じような生活を送ることもできます。ぜひ活発に行動してたくさんの外国人と関わってみてください。

ブリスベンはすごく静かで人も親切で、日本よりも平和なのではないかと思うほどでした。サポートも充実しているので、安心して参加することが出来ると思います。